飯綱町立
三水小学校

明日へ

令和元年　１０月２４日
学校だより第９号
文責：山田

渾身の演奏をご期待ください

＜明日はいよいよ音楽会＞

まだまだだと思っていましたが、いつの間にか前日になりました。普段の授業時間だけでなく、休み時間にも歌声や楽器の音が校内に響き渡っています。子どもたちはとても熱心に自分たちの演奏に取り組んでいます。今年は９月２７日に、富澤　裕先生（指揮者、作曲家）を講師に招き、演奏することの楽しさ、おもしろさをたくさんご指導いただきました。そのことが励みとなり、明日の音楽会を目指して、毎日子どもたち、職員が追究を重ねてまいりました。「真剣に心を込めて歌う」「他の楽器の音を聞きながら弾く」「きれいな声を体育館中に響かせる」「１つの音ごとに正確にたたく」「みんなと心をひとつにして弾く」「歌詞の意味を考えながら歌う」……子どもたちの学びの様子をご覧いただき、温かい拍手で支えていただければ幸いです。

本校では音楽会を、「保護者や地域の方々の協力のもとに創り上げる、壮大な『授業』」と位置づけています。子どもたちも職員も一緒になって、追究し積み上げたもの、そこに「学び」が生まれます。単なる発表会ではなく、みんなで創り上げる「演奏会」にしたいと考えています。それについて、次の３点を大切にしてきました。

１　「練習」から「追究」へ
単調に繰り返すことに終始するのではなく、「どんなふう演奏したいか」「誰に聞いてほしいか」「どんなふうに表現するか」などみんなで考え合いながら追究していくことが「学び」につながり、授業となります。

２　「仕上げる」から「積み上げる」へ
先週より今週、一昨日より昨日、昨日より今日、今日より明日、というように、毎回学んだことを積み上げていきます。音楽会は最終ゴールではなく、音楽を学び追究する活動は今後も続いていきます。仕上げようという意識から、一つ一つ積み上げて今までで最高の演奏を、という意識で取り組みます。

３　「失敗を叱る」から「育ちを意味づける」へ
完璧に仕上げようとすると、どうしてもマイナス面に目がいきます。失敗が許されない雰囲気が漂います。間違えずに演奏することはもちろん大切ですが、音楽会が終わって「歌うことは楽しいな」「演奏することは楽しい」「演奏を聞くことが楽しい」といった気持ちがもてるような音楽会でありたいと思います。

子どもたちの渾身のステージをお楽しみに。

＜ステージ、会場、みんなで一緒に創り上げる音楽会へ＞

音楽会当日は、「子どもたちのステージでの演奏」「演奏後の心のこもった拍手」「会場のマナー」これらすべてがそろって「芸術」となっていくように思います。絵画に例えてみると……、

ステージでの演奏	→	画用紙やキャンバスに描かれた絵（作品）
演奏後の心のこもった拍手	→	絵を飾る額
演奏前と後の移動中の静寂	→	額に入った絵を展示する会場（美術館，博物館）

のようになるでしょうか。演奏する者だけでなく、会場の私たちも一緒になって創り上げていきたいですね。静寂も芸術の一部を担っています。「演奏」「拍手」「静寂」、これらが三拍子そろうことによって「さらにすばらしいステージ」となることでしょう。それが「演奏会」であり、「芸術」となるのだと思います。

当日は、子どもたちは「こんなふうに演奏したい」「ぜひ聴いてほしい」という気持ちでステージに立ちます。精一杯の演奏（作品）を、温かい拍手（作品を飾る額）と静寂（会場の雰囲気づくり）をもって、みんなで創り上げられたら幸いです。